OKI

IPstage EX300/MX/SX

操作説明書

- 本書は製品を安全にご使用いただくための注意事項が書かれています。ご使用になる前に必ずお読みください。
- ご使用になる間は、本書を製品の近くに保管していつでもご活用できるようにしてください。

SN-4431(A1)

このたびは、IPstage シリーズ交換機をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

- ご使用の前に、本書をよくお読みの上、本装置を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本装置のそばなどいつもお手元においてお使いください。

商標について
－ IPstage、 e おと、Com@WILL は沖電気工業株式会社の登録商標です。
－ e えいぞう、マイ e おとは沖電気工業株式会社の商標です。
－ その他、記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

◆ ご注意

(1) 本書に記載されている内容の一部または全部を無断記載・無断複写することは固くお断りいたします。
(2) 本書に記載されている内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 天災、停電、あるいは本装置の故障や誤動作などにより、本装置が使えなかったことによる付随的損害保証については当社では、一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

表記の取り決め

本書では、読者の注意を喚起するために次の図記号を用いています。

■記号の意味

「禁止」を示します。この記号のついた警告・注意文が指定する行為は絶対に行わないでください。

「強制」を示します。この記号のついた警告・注意文が指定する行為は必ず実行してください。

注意　特に注意が必要な点を記載しています。

メモ　操作上のヒントや注意点を記載しています。

操作や機能の補足説明を記載しています。

➤➤　関連した説明の参照箇所を記載しています。

メモ　IPstage には、収容回線の規模により、IPstage EX300、IPstage MX、IPstage SX の 3 機種あります。本書では、3 機種を合わせて、IPstage EX300/MX/SX、または IPstage と表記します。

安全上のご注意

― ご使用の前に必ずお読みください ―

この「安全上のご注意」には、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、守っていただきたい事項を示しています。
本装置をご使用の前に、本文をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。

■主装置について

⚠警告	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⃠	LAN ポートや PC ポートに接続したネットワークケーブルを、コンセント、アナログ電話回線、デジタル電話回線 (ISDN)、PBX デジタル電話回線などには接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置を分解、改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢など、液体の入った容器または、小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
⃠	濡れた手で、電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
⃠	電源コードのタコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
⃠	電源コードに重い物を載せたり、加熱したり、引っ張ったりしないでください。コードが破損し、火災・感電の原因となります。
⃠	本装置は AC100V ± 10V の電源電圧で動作するように設計されています。この定格電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
❗	電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
❗	電源プラグのほこりを取ってください。絶縁不良になり、火災の原因になります。
❗	万一、内部に水などが入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
❗	煙が出ている、異臭がするなどの場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
❗	万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
❗	内部の点検・修理は、取扱店に依頼してください。

⚠注意	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
⃠	調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、およびチリ、ほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
⃠	ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
⃠	直射日光の当たる所や、湿度の高い所には置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。
⃠	本装置の通風口をふさがないでください。通風口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。
⃠	振動が多い場所には設置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
⃠	強い磁界やノイズ発生源から離して設置してください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
⃠	本機を上下逆さまの状態で設置しないでください。内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。
❗	壁掛け用に取り付ける場合は、重みにより本装置が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。
❗	電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、コードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
❗	本装置を移動させるときは、先ず装置の電源スイッチの切り方に従い電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。次に、回線コードなど外部の接続線をすべて外してください。 誤った電源スイッチの切り方をしますと、装置に異常をきたす場合があります。また、移設は接続線を外したことを確認した上で行なってください。 コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。
❗	水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。内部に水滴が入ると火災や故障の原因となることがあります。
❗	お手入れの際は安全のために、電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。
❗	必ずアースを接続してください。

■電話機について

以下の内容は、マルチ・キーテレホンＲについての記述です。他の電話機やPHSなどについては、各端末に添付されている取扱説明書をお読みください。

⚠警告	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⃠	電話機コードをコンセントには接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢など、液体の入った容器または、小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
❗	内部の点検・修理は、取扱店に依頼してください。

⚠注意	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
⃠	調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所および、ちり、ほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
⃠	ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
⃠	直射日光の当たる所や、湿度の高い所には置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。
❗	水滴がついたら乾いた布で拭き取ってください。内部に入ると、火災・故障の原因となることがあります。
❗	壁掛け用に取り付ける場合は、重みにより本装置が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。

■装置全体について

ご使用にあたってのお願い

- この装置は、クラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適正な対策を講ずるよう要求されることがあります。
- 停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた遺失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置を人命や、危害に直接的または、間接的に高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください。
- 本装置を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
- 本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります。

設置にあたって

- ヘッドセットでお使いになる場合、別売のヘッドセットが必要です。（沖電気製 DTS-HM-10-HDS を推奨）
- 放送局の近くや違法ＣＢ無線など、強い電波を受ける場所では通話中に雑音が入ることがあります。通話に支障をきたす場合には、取扱店にご相談ください。
- テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります。

取り扱い上のご注意

- 落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
- 本装置に接続されている受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれているラインコードを強く引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。
- 本装置を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコール及びシリコン系クリーナなどの使用は絶対にさけてください。変色、変形の原因になることがあります。水を含んだ布をかたく絞って拭いた後、柔らかい布でからぶきしてください。

製品の保証と責任の範囲

■保証期間

本製品の保証期間はシステム運用開始日から 1 年間です。保証期間中に本製品が通常の使用状態で故障した場合、無償で修理いたします。

■保証の対象

保証の対象となる部分は、本製品のみです。

■保証の対象外

1. お客様の誤った操作に起因する損害については、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。
2. 本製品の品質・機能および本マニュアルに関して、お客様の使用目的に対する適合性、市場性などについては、一切の保証を致しかねます。また、そこから生じる直接的、間接的損害に対しても責任を負いかねます。

■その他

1. ソフトウェアおよび各種ドキュメントをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者の使用に供することは固く禁じられています。第三者の使用に供した場合、著作権の侵害行為となり、損害賠償請求の対象となります。
2. 本製品に対する保証は、日本国内においてのみ有効です。
3. IPstage の運用・保守に関する疑問や質問、あるいは本マニュアルの記述で不明な箇所がありましたら、本製品を購入された取扱店までお問い合わせください。
4. 本製品のライセンスについて
   本製品は、一部に GNU 一般公衆利用許諾契約書（GNU General Public License：以下「GPL」）および GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書（GNU Lesser General Public License：以下「LGPL」）が適用されたオープンソースソフトウェアを使用しています。これらのオープンソースソフトウェアに限り、GPL、LGPL の定めに従い、入手、改変、再配布等を行って頂くことが可能です。
   本製品のライセンスの詳細や、GPL、LGPL 適用オープンソースソフトウェアのソースコードの入手方法につきましては、取扱店にお問い合わせください。

   なお、個別の GPL、LGPL 適用オープンソースソフトウェアに関しましては、ソフトウェアの不稼動、稼動不良を含む法律上の瑕疵担保責任、その他保証責任を弊社は一切負わないものとします。

はじめに

■ 本書の目的

本書は、IPstage システムのビジネスホン機能に焦点をあて、IPstage の端末装置（電話機）の操作方法を説明しています。
本書で主に説明の対象としている電話機は「マルチ・キーテレホン R」（MKT/R）です。
また、巻末には電話機（マルチ・キーテレホン R）の操作が一目で確認できるように「操作早見表」をご用意しました。切り取り線で切り取り、電話機利用者の方々にコピー／配布してご利用になると便利です。

■ 対象読者

本書の対象読者として、以下の方を想定しています。

- IPstage のシステム管理者（お客様）
- IPstage の端末装置（電話機）の利用者

システム管理者だけが行える操作の場合には、その旨を記載しています。

メモ IPstage SX で使用できる専用線は、SIP 専用線のみです。

■ 本書の構成

第１章　お使いになる前に

IPstage システム（主装置）および端末装置（電話機）をご利用いただく上で必要な各部の名称や電話機のディスプレイの見方など、予備知識を説明しています。

第２章　電話の基本的な使い方

電話のかけ方、受け方、保留して転送する方法など、電話機の基本的な操作方法を説明しています。

第３章　ディスプレイのメニューの使い方

電話機のディスプレイのメニューを利用して電話帳や履歴などを操作する方法、メニューを使って電話機に機能を登録する方法などを説明しています。

第４章　電話の便利な使い方

夜間や留守中など電話に出られない場合に便利な機能など、知っておくと便利な機能を説明しています。ボイスメールの使い方なども説明しています。

第５章　電話機の調整

電話機を快適にお使いいただくために必要な、日時や角度や音量など、電話機の調節のしかたを説明しています。

第６章　さらに活用したいとき

周辺機器と接続している場合の操作、マルチ・キーテレホン R 以外の電話機（アナログ電話機、PHS、無線 LAN デュアル端末など）を使用する場合の留意点について説明しています。

付録

電話に登録できる機能の一覧、用語解説などを掲載しています。

操作早見表

電話機（マルチ・キーテレホン R）やボイスメールの操作が一目で確認できます。切り取れるようになっていますので、必要に応じて切り取り線で切り取り、必要な部数をコピーして端末装置（電話機）の利用者の方々に配布してご利用ください。

目　次

表記の取り決め …… i

安全上のご注意 …… ii

製品の保証と責任の範囲 …… vi

はじめに …… vii

本書の目的 …… vii

対象読者 …… vii

本書の構成 …… viii

第 1 章 お使いになる前に …… 1

1-1 IPstage EX300/MX/SX の特長 …… 2

1-2 構成図 …… 4

1-3 主装置について …… 6

添付品 …… 6

IPstage SX のカバーの外し方 …… 7

IPstage SX のランプ表示 …… 8

IPstage SX の電源をオンにする …… 10

IPstage SX の電源をオフにする …… 11

停電について …… 12

1-4 電話機の各部の名称と説明 …… 14

マルチ・キーテレホン R …… 14

1-5 電話機のディスプレイの見方 …… 18

1-6 システム管理電話機と一般電話機 …… 20

第 2 章 電話の基本的な使い方 …… 21

2-1 電話をかける …… 22

外線にかける …… 22

外線が空いていないときは …… 24

内線にかける …… 25

音声で内線を呼び出す …… 26

ダイヤルしてから受話器を上げる …… 27

ハンズフリーで電話をかける …… 28

リダイヤルする …… 29

電話帳を使って電話をかける …… 30

履歴を使って電話をかける …… 31

短縮番号をダイヤルして電話をかける …… 32

ワンタッチで電話をかける …… 33

2-2 電話を受ける …… 34

外線を受ける …… 34

内線（着信音）を受ける ……36
内線（音声呼出し）を受ける ……36
内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける ……37
特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける ……37
キャッチホンの電話を受ける ……39

2-3 電話を保留する …… 40
外線からの電話をすべての電話機で取れるように保留する ……40
他の電話機で取れないように保留する ……41
グループの中だけで取れるように保留する ……42

2-4 電話を取り次ぐ …… 43
保留したあと口頭で取り次ぐ ……43
転送先の内線と話してから取り次ぐ ……44
転送先の内線と話さずに取り次ぐ ……45
かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する ……46
かかってきた電話を外線に転送する ……48

第3章 ディスプレイのメニューの使い方 …… 51

3-1 メニューを操作するためのキー …… 52

3-2 文字入力方法 …… 53
入力モードとキーの割り当て ……53
文字入力モードの切替え ……54
漢字の入力例 ……55
カナの入力例 ……56
入力文字の修正例 ……57

3-3 メニュー項目について …… 58

3-4 パスワードを設定する …… 59
各電話機のパスワードを入力する ……59
各電話機のパスワードを変更する ……60
管理者用パスワードを入力する ……61

3-5 内線の名前を登録する …… 63

3-6 電話帳を使う …… 65
電話帳に新規に登録する ……65
電話帳にグループ名を登録する ……68
電話帳を名前で検索する ……69
電話帳をメモリ番号で検索する ……70
電話帳をグループで検索する ……71
電話帳の内容を修正する ……72
電話帳から 1 件削除する ……73
電話帳の内容をすべて消去する ……74

3-7 履歴を使う …… 75
発信記録を表示する ……75
着信記録を表示する ……77

履歴を電話帳に登録する ……79
履歴を 1 件ずつ削除する ……80
履歴をすべて削除する ……81

3-8 短縮ダイヤルを使う …… 82
相手の名前から短縮ダイヤルを検索する ……82
メモリ番号から相手の名前を検索する ……84
短縮ダイヤルを登録する ……85
短縮ダイヤルの登録内容を変更する ……88
短縮ダイヤルの登録を 1 件消去する ……89
短縮ダイヤルの登録をすべて消去する ……90

3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける …… 91
フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける ……91
フレキシブルキーに短縮キーを割り付ける ……93
フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける ……95
フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける ……97
フレキシブルキーの割付けをクリアする ……98
フレキシブルキーにメールボックスキーを割り付ける ……99

3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する …… 100

第 4 章 電話の便利な使い方 …… 103

4-1 不在時に他の電話へ転送する …… 104
不在転送を有効にする／解除する …… 105
かかってきた電話の転送先を設定する …… 106
かかってきた相手によって転送先を設定する …… 108

4-2 留守番電話機能を使う …… 111
ボイスメールを留守番電話として使う …… 111
応答メッセージを録音する …… 113

4-3 指定した外線を別の外線へ転送する …… 115
転送電話を有効にする／解除する …… 115
転送する回線と転送先の外線を指定する …… 116

4-4 昼夜モードを切り替える …… 118
昼夜モードを手動で切り替える …… 118
昼夜モードごとに着信音を設定する …… 119

4-5 着信を 1 台の電話機で受ける …… 121

4-6 迷惑電話を拒否する …… 122
通話中の相手を着信拒否に設定する …… 122
着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する …… 123
着信拒否の電話番号を登録する …… 124
着信拒否の電話番号を削除する …… 126
迷惑電話への対処方法を設定する …… 128

4-7 ３人以上で通話する …… 130
社内の人を口頭で呼びかけて会議通話に加える …… 130
社内外で会議通話をする …… 132

4-8 内線をもっと活用する …… 133
不在時にかかってきた内線の相手にメッセージを送る …… 134
転送先の内線から転送指示をする …… 136
グループ内の電話を一斉に音声で呼び出す …… 137
グループ内の一斉音声呼出しを受ける …… 138
他のグループを呼び出す …… 139
グループ内の電話に代理で応答する …… 140
他グループの電話に代理で応答する …… 141
話し中の内線を呼び出す …… 142
話し中の内線を予約する …… 143
話し中の内線の近くの内線を呼び出す …… 144

4-9 外出時に便利な機能 …… 145
外出先から転送電話の設定などを変更する …… 145
無線 LAN デュアル端末を社内で内線として使用する …… 147

4-10 ボイスメール機能を使う …… 148
メールセンターに接続する …… 150
メッセージを録音する（伝言録音）…… 154
メッセージを録音する …… 155
メッセージを再生する …… 157
メッセージを転送する …… 159
通話相手に転送先へのメッセージを録音してもらう …… 160
通話を録音する …… 161
外出先からメールセンターに接続する …… 163
通話相手をメールセンターに接続させる …… 164
メールボックスにパスワードを設定する …… 165
メッセージの着信を知らせる …… 167
メールボックスの中を整理する …… 169

4-11 その他の便利な機能 …… 172
ｉ・ナンバー機能を利用する …… 172
INS ボイスワープを利用する …… 172
プッシュホン信号を送る …… 176

第５章 電話機の調整 …… 177

5-1 ファンクションカードを取り替える …… 178
取り外し方 …… 178
取り付け方 …… 179

5-2 電話機の角度を変える …… 180
角度を大きくする …… 180
角度を元に戻す …… 181

5-3 ディスプレイの角度を変える …… 182
5-4 電話機を壁に取り付ける …… 183
5-5 日付・時刻を合わせる …… 185
日付を合わせる …… 185
時刻を合わせる …… 187
5-6 着信音の音色を選択する …… 189
電話機の音源を使って着信音の音色を変える …… 189
主装置の音源を使って着信音の音色を変える …… 190
5-7 音量を調節する …… 191
着信音量を調節する …… 191
受話音量を調節する …… 192
送話音量を調整する …… 193
マイク音量を調整する …… 195
警告音などのローカルトーンの音量を調整する …… 196
キータッチ音のオン／オフを切り替える …… 197
「マイ e おと」の設定を調整する …… 198
5-8 ディスプレイ表示を調節する …… 199
ディスプレイのバックライトの色を選択する …… 199
バックライトタイマを調節する …… 200
ディスプレイの濃度を調節する …… 201
5-9 ハンドセット／ハンズフリー／ヘッドセットを切り替える …… 202
5-10 フレキシブルキーをワンタッチキーに切り替える …… 203

第6章 さらに活用したいとき …… 205

6-1 周辺機器との接続 …… 206
構内放送装置との接続 …… 206
ドアホンとの接続 …… 208
6-2 アナログ電話機の操作 …… 210
アナログ電話機で利用可能なサービス機能 …… 210
アナログ電話機に特有な操作手順 …… 210
6-3 PHS の操作 …… 214
PHS に特有な機能の紹介 …… 214
PHS で利用可能なサービス機能 …… 215
PHS 端末に特有な操作手順 …… 215
6-4 無線 LAN デュアル端末について …… 218

付録 …… 221

フレキシブルキー機能一覧 …… 222
短縮ダイヤル、電話帳、ワンタッチキー、オートダイヤルキーの機能のちがい … 224
用語解説 …… 225

故障かな？とお考えになる前に …… 231

保証とアフターサービス …… 232

保証について …… 232
修理を依頼されるときには …… 232
おわかりにならないことは …… 232

操作早見表 …… 233

電話をかける …… 233
電話を受ける …… 234
電話を保留する／転送する …… 235
その他の操作 …… 236
音量・ディスプレイの調整 …… 236
いろいろな登録 …… 237
ボイスメールの操作 …… 239

索引 …… 243